

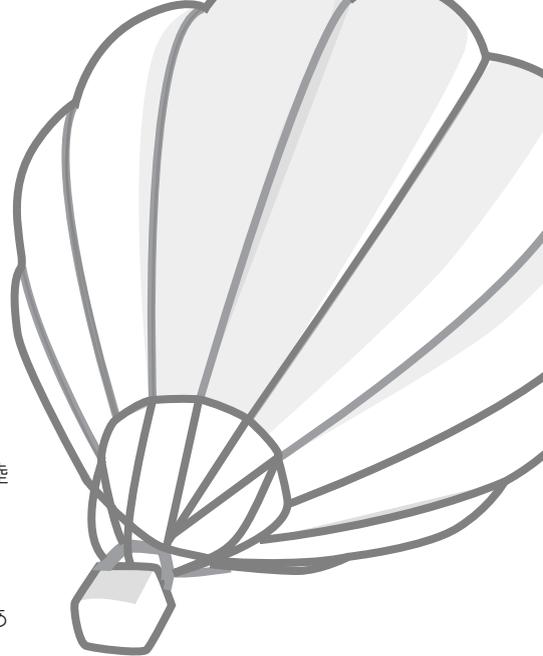
## 昨年参加者が語る 板倉コンペの「みどころ」

今年もSpace Glider Competition、通称「板倉コンペ」が行われます。気球の上空からトレーニング用模擬衛星を放出し、目標点へ自律的に落下させ、着陸地点と目標地点との距離で評価するチーム対抗戦です。

今年は個性あふれる12チームが参戦。

気球というあまり日常では見られない乗り物から、パラfoilを自分で一生懸命あやつりながら目標地点に向かう小さな衛星たちの姿は、まるでひたむきに衛星を作る学生たちそのものの姿のようです。

今回は特集として、昨年のコンペに衛星製作側として参加され48mという記録で見事優勝した東京大学の永井将貴さんと、運営側として参加された慶応義塾大学の岡村周実さんによる「みどころ」をお伝えします。



慶応義塾大学  
岡村 周実 さん  
SYUMA OKAMURA

明らかに夏の重苦しい空の色とは違う、秋の透明な軽やかな空色が視界に入る瞬間、今年も板倉コンペの季節になったんだなあと、ふと思ったりします。

そういや、あんな青い高い空に気球で上ったっけと、記憶がフラッシュバックする瞬間があります。だだっ広い板倉の平原で、それよりもっともっただだっ広い空に、飛行する小型衛星を一生懸命探したなあと、白昼夢を見ることがあります。

そうやって、どんどん空に意識が吸い込まれていく瞬間が確かにあります。

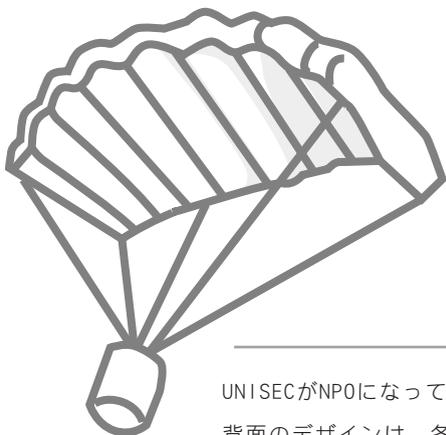
それは、目線の高さからしか世界を捉えられなくなった時に間違いなく私を空の高みに解放してくれる瞬間です。空を実感することで得られる、この“瞬間”を、ぜひたくさんの人に共有してもらいたいなあと思います。

東京大学  
永井 将貴 さん  
MASAKI NAGAI



去年の感想。一言で言いますと・・・「意外」です。今までうまく動かなかったものが動くようになって勝つことができました。

他のスポーツと同じように、どこでどんな展開になるかわからない「意外性」があるのが見所だと思います。



一枚2500円(送料別) UNISEC特製Tシャツ販売中!

UNISECがNPOIになって初めてのオフィシャルTシャツです。

背面のデザインは、各チームが地上の的を狙う恒例のCANSATイベントで、クレーターをカムバックコンペのゴールに見立てています。またハイブリッドロケットやローパー、Cubeなど、学生主体の宇宙開発も表しています。抽象的な意味で、皆が狙うこの地上の的は、新しい宇宙開発そのものです。的に近付く事が、将来の新しい宇宙開発への一歩になっていると思います。このTシャツを着て、宇宙開発の将来を担い、また応援してくれることを願っています。



ご購入申し込みは [info@unisec.jp](mailto:info@unisec.jp) へ

